

阪神・淡路大震災 追悼のことば

(令和6.1.17朝 全校放送にて)

皆さん、おはようございます。芦屋国際中等教育学校長の川崎芳徳です。

今日は1月17日、私たちが、決して忘れてはいけない日ですので、少しの時間、追悼行事を行わせていただきますこと、ご理解ください。

今年の元旦、能登半島地震が発生し、街の様子は一変、多くの犠牲者を出しています。皆さんも、連日、テレビ等でその状況を見られていることと思います・・・ここ兵庫県でも起こりました・・・。

今から29年前の1995年、平成7年の1月17日、まだ、多くの人が眠っていた、早朝5時46分52秒に、マグニチュード「7.3」、最大震度「7」という、巨大な「兵庫県南部地震」が発生し、「阪神・淡路大震災」を引き起こしました。私も、今でも、この時の「揺れ」の感覚を身体（からだ）が覚えています。生まれて初めて、「地球は生きている。私はこれまで、地球という生きた星の上に住まわせてもらっていたのだ」ということを強く感じさせられました。

犠牲者、6,434名という、あまりにも多くの尊い命、思い出の詰まった家、住み慣れた街並み、そして一人一人、それぞれに夢と希望に満ち、充実した人生の真ただ中だったにも関わらず、この地震が突然に奪い去ったのです。あまりにも惨い出来事でした。

現在、震災体験のない人が増えていく一方、またいつ、大地震、大型台風、集中豪雨などによる災害に見舞われるやも知れない今日（こんにち）、追悼行事を通して、震災の「経験」、そして、そこから得た「教訓」を風化させることなく心に刻み、継承していくことが強く求められています。

とりわけ、私たちの「命」について、改めて考える機会にしなければならないと思っています。日頃、私たちは、ともすれば、「命」を軽んじる発言や行動を取ることがあります。しかし、考えてみてください・・・皆さん、昨夜は何を食べましたか？今朝は何を食べましたか？今日のお昼は何を食べますか？かわいい牛の「命」を、鶏の「命」を、豚の「命」を、魚を貝を、また、野菜もすくすく育ち、確かな「命」を宿しています。これら多くの「命」をいただいて、私たちは、自身の「命」を持続することができているのです。

途方もなく遠い昔から、先祖代々、脈々と受け継がれ、ご両親から、奇跡的に受け取ることができた「命」、そして多くの動植物の「命」をいただくことで、持続できている、この「命」を思えば、「命」は、既に、自分だけのものではないことに気づかされるでしょう。

大切に大切に、この「命」尽きるまで精一杯生き切ることで、恩返しをしなければならないのではないのでしょうか。

皆さん、どうか、震災の経験、教訓、命について、心静かに思いを寄せるとともに、ご家族・友人と話題にし、語り継いでいってください。

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として、1月17日を「ひょうご安全の日」と定めており、現在、HAT神戸にある「人と防災未来センター」を中心に、追悼行事「ひょうご安全の日のつどい」が、テーマを「震災を風化させないー『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」として執り行われています。

この集いに合わせ、皆さんも一緒に、犠牲になられた多くの方々に対し黙禱を行っていただきたいと思います。

震災で犠牲になられた方々に、心より哀悼の誠を捧げ、追悼のことばといたします。